

半田市環境基本計画に関する 評価・提案

(平成29年度分)

平成30年12月

はんだ環境パートナーシップ会議

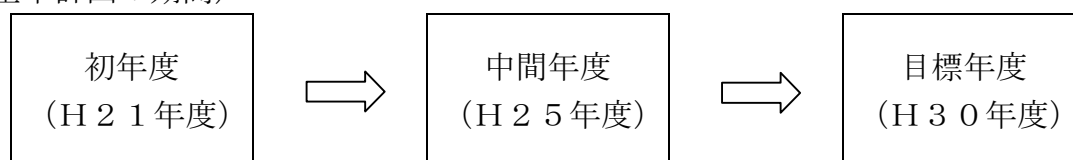
1. はじめに

半田市環境基本計画（以下、「基本計画」という。）は、半田市環境保全条例第7条に基づき、本市における生活環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的として策定し、平成21年度を初年度とした10年間の計画です。

中間年度である平成25年度において見直しを行い、計画を着実に推進するために、様々な取り組みを行っています。

基本計画に掲げる施策を実施・適正な進行管理のため、市民・事業者・行政・有識者で構成する「はんだ環境パートナーシップ会議」において、平成29年度実施分の評価を取りまとめましたので報告します。

（基本計画の期間）



2. 評価の方法

評価については、まず、担当課において実績報告票で「庁内評価」を行い、その結果を参考としながら、はんだ環境パートナーシップ会議において議論し「市民評価」を行い、総括的な評価としてまとめました。

「庁内評価」については、施策ごとに設定した指標（目標値）と現状値との比較や、平成29年度事業の実施内容・進捗状況を踏まえ、担当課において4段階の成果指標達成度を評価しました。

「市民評価」については、環境基本計画の5つの柱を評価するとともに、特に検討が必要な項目を3つに絞り、担当課を交えて実施内容を協議・検討しました。5つの柱の施策の進捗状況、各指標の推移などを参考に4段階評価を行うとともに、施策の到達点や課題などについてまとめ、今後の施策推進に向けた提案をしました。

■庁内評価（成果指標達成度基準）

達成度 マーク	説 明	
 AA	目標値を達成しているもの	【計画を上回る】
 A	基準値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも上方（達成方向）であるもの	【計画どおり】
 B	基準値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも下方（未達成方向）であるものの、基準値からは向上、改善しているもの	【計画を下回る】
 C	最新値が、基準値よりも下方しているもの	【未着手】

■市民評価（評価基準）

達成度 マーク	説 明
 AA	良好です
 A	概ね良好です
 B	改善・見直しの必要があります
 C	改善・見直しを行い一層の努力が必要です

5つの柱

1. ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち
2. 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち
3. 豊かな自然を守り、自然と共生するまち
4. 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にするまち
5. みんなで環境を守り育てるまち

3. 平成29年度分の評価

柱1 ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち

1-1 公害のない安心・安全な暮らしの確保

- 1-1-1 事業活動等から生じる典型7公害に係る環境基準及び関連規制を満たします。
- 1-1-2 ため池の水質改善を図ります。
- 1-1-3 河川・海域の水質改善を図ります。
- 1-1-4 地場産業である畜産業の発展のため、ふん尿処理に起因する臭気について、対策を図ります。

1-2 快適な市民生活環境の確保

- 1-2-1 交通流円滑化・交通量低減対策を図り、交通渋滞を解消します。
- 1-2-2 住環境の向上を図るため、市街地を整備します。
- 1-2-3 生活に起因する環境問題について、適切な対策を図ります。

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 AA	 A	 B	 C	
4	14	1	0	19

はんだ環境パートナーシップ会議委員評価				市民評価
 AA	 A	 B	 C	 A
0	10	2	0	

《評価できる点》

- 公害発生源となる事業所関係の点検が計画通り行われていることは評価できる。
- 典型7公害に係る環境基準値がほぼ満たされていることは評価できる。
- 水質調査（河川12ヶ所、海域6ヶ所）が毎月1回行われていることは評価できる。
- 地場産業である畜産業の臭気低減対策が大同大学との共同研究、臭気低減対策の効果確認、臭気マップの作成、バイオマス発電施設の建設等、様々な団体等と連携しながら推進していることは非常に評価できる。
- 水辺クリーン・アップ大作戦は、大勢のボランティアの協力により水辺のごみを大量に回収できるので評価できる。

《今後の課題及び期待したい点》

- 阿久比川下流の水質悪化について、天候、潮流の影響が疑われるならば、その影響が少ない状況で調査し、原因を究明してほしい。
- 水質が良くなっていない矢勝川、ため池などの水質改善に取り組んでほしい。
- 半田の文化と観光を代表する地区を流れる矢勝川の水質改善を住民との協働で模索してほしい。
- 河川等の水質を考える際には、設置されている合併浄化槽が、すべて法定点検を実施しているか分かるデータがほしい。
- バイオマス産業都市構想の実現により畜産臭気が低減できることを期待したい。
- 畜産臭気の低減対策が農家に定着し、市街地における臭気が少しでも低減することを期待する。
- 避難所には自家発電やエアコンを設置するなど、災害発生時の熱中症対策についても検討してほしい。

《提案》

- 目標を達成できていない河川については、原因を調査するとともに、この状況が生活環境にどのような影響をもたらすのかを明確にし、特に影響がない場合は、目標の見直しを検討すること。
- 河川の水質浄化については、農業者や地域住民へ出前講座を実施するだけでなく、他の地域における事例を参考に、関係者が主体的に「河川環境を良くしよう」と思う取組みを検討すること。
- 矢勝川は、半田の文化と観光を代表する地区を流れる河川であるため、重点河川として位置付け、関係団体等と連携し、水質浄化に取り組むこと。
- バイオマス産業都市構想の事業については、順調に進むことを期待しているが、想定外の問題が発生しないよう、進捗状況はしっかり監視すること。
- 畜産ふん尿の処理に起因する臭気については、住宅地での改善を図る新たな対策を検討すること。

柱２ 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち

２－１ 温室効果ガス排出量の削減

２－１－１ 市内の温室効果ガス排出量を把握し、地球温暖化対策を各分野ごとに効果的に推進します。

２－１－２ 産業・業務部門での対策を推進します。

２－１－３ 運輸部門での対策を推進します。

２－１－４ 家庭部門での対策を推進します。

２－１－５ 市（行政）において率先して行動します。

２－２ 資源循環型社会の構築

２－２－１ ごみを出さない（発生抑制）ライフスタイルや事業活動を促進します。

２－２－２ リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）を推進します。

２－２－３ 廃棄物の適正処理を推進します。

２－３ 環境に配慮した事業活動を推進します。

２－３－１ 環境マネジメントシステムの導入促進を図ります。

２－３－２ 事業者による周辺住民との自主的なリスクコミュニケーションを促進します。

２－３－３ 中小企業等の環境に配慮した事業活動を推進します。

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 A A	 A	 B	 C	
5	1 5	1 8	0	3 8

はんだ環境パートナーシップ会議委員評価				市民評価
 A A	 A	 B	 C	
1	4	7	0	 B

《評価できる点》

○温室効果ガスの排出量削減に関する事業で目標値を十分にクリアしていることは評価できる。

○畜産ふん尿を有効利用し地域のエネルギー資源とするバイオマス産業都市構想は、環境面での課題を解決するとともに、地場産業である畜産産業の発展にも寄与することから、大変すばらしい着想であり、評価できる。

○ごみ問題について、市民が関心を持つよう工夫し、推進した点は評価できる。特に、資源の混入を地域で比較した点は評価できる。

《今後の課題及び期待したい点》

- 半田市が省エネ法のＳクラスの事業者になっていない。
- 環境省の区域施策編支援ツールで「家庭部門のＣＯ₂年間排出量」を把握しているが、その算出は案分によるものであるため、市町村単位で数値化することには疑問がある。
- ごみの排出量を減らすために、家庭系ごみの有料化に取り組んでいくとしているが、その検討過程を透明化する、市民に対しての説明会を懇切丁寧に実施するなど、その必要性等が市民に十分理解されるよう進めていただきたい。
- ごみの有料化は、ごみ減量の根本的な解決にならない。企業への声掛け、市民への啓発等、ごみを減らす根本的な施策が必要だと思う。
- ごみの発生抑制やリサイクル等による持続可能な循環型社会を形成するには、市民に意識改革を働きかける必要があると思う。

《提案》

- 「市（行政）は率先して行動します。」ということを市民に示すため、半田市は、省エネ法が定める、最もレベルの高いＳクラスの事業者を目指すこと。
- 有価資源については、市が重点的に集めるものを決定し、それに対して集団回収報奨金を交付するような、地域も目的が分かり易い仕組みづくりを検討すること。
- 集団回収については、品目が多く、量もあり、また、臭いがするため、回収には軽トラックが必要である。回収に協力してくれる業者などの情報を地域にも周知すること。
- ペットボトルや空き缶については、ポイ捨てが多いため、資源回収と関連付けした、啓発を行うこと。
- 行政が「ペットボトルにラベルは貼らない」などの罰則を伴うルールをつくり、企業に環境への努力を促すこと。
- リサイクル率が上がらないのは、製品自体のリサイクルが難しいところに原因がある。市が子どもにアンケートを取り、その結果を企業に伝えることで、企業が子どもの意見を反映した製品を作るような仕組みを考えること。
- 市の幹部が、地区の会合や式典などで挨拶する際には、必ずごみの分別や減量化の話をして、ごみ問題に対する市民の意識向上を図ること。
- 平成３４年４月から稼働予定の広域ごみ処理施設の負担金が市町の排出割合によって決まることと、市民一人一人が、どのような努力をどの位すると負担金が減るのかを市民に周知すること。
- 自治区・学区単位で、生ごみを回収するシステムを構築するとともに、空き地に市民農園や堆肥化施設、小規模なバイオマス発電施設などを作り、エコ対策を身近に実感、実践できる環境づくりを行っていくこと。

柱3 豊かな自然を守り、自然と共生するまち

3-1 うるおいのある緑・水空間の整備

3-1-1 緑や水と親しみ、身近に感じられる場を保全・創造します。

3-2 生物多様性の保全

3-2-1 生態系ネットワークに配慮した自然環境保全及び整備を推進します。

3-2-2 特定外来生物についての対策を図ります。

3-3 環境面からの農業振興

3-3-1 環境保全機能を持つ農地を保全します。

3-3-2 緑地確保のため農地の活用を図ります。

3-3-3 地産地消を推進します。

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 AA	 A	 B	 C	
4	18	3	1	26

はんだ環境パートナーシップ会議委員評価				市民評価
 AA	 A	 B	 C	 A
2	9	1	0	

《評価できる点》

- 親水性を考慮した河川の整備が行われていることは評価できる。
- 河川に魚道（水の段差の軽減）が設けられていることは評価できる。
- 河川、ため池、公園などでの生き物調査が継続的に行われていることは評価できる。
- 学校給食で市内企業の調味料を使用し、地産地消を図っていることは評価できる。

《今後の課題及び期待したい点》

- 親水型工事で施工した河川やため池において、草丈が伸び過ぎて親水の状態が維持できていないことがある。親水部分だけでも草の管理（見回り）は徹底してほしい。
- 生物多様性の保全を目的とする自然環境学習公園などの用地を確保する場合、具体的な施策として、耕作放棄地などの農地を用途変更して利用できるようにしてほしい。

○身近に存在している多くの外来生物に対し、今後、どのように取り組んでいくか考えてほしい。

《提案》

○河川やため池においては、親水部分だけでも草の管理（見回り）は徹底して行うこと。

○市民が自然に親しめる・田んぼに親しめるような環境を整備すること。

○「農業起業塾」を開催し、潜在的なニーズの発見に努めること。

○外来生物の駆除について、市民は具体的な対策を知らないので、市はその対策を明確にすること。

柱4 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にすまち

4-1 美しく半田らしい景観の整備

4-1-1 美しいまち並みを保全・創造します。

4-2 歴史的・文化的環境資源の保全と継承

4-2-1 地域の歴史的・文化的資源を保全・継承するとともに、環境に配慮した観光資源の整備を推進します。

4-3 ゆとりややすらぎ、活気のある空間の整備

4-3-1 公園や広場等の市民が憩う場の整備を推進します。

4-3-2 環境に配慮した中心市街地の整備を推進します。

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 AA	 A	 B	 C	
4	1 1	1	0	1 6

はんだ環境パートナーシップ会議委員評価				市民評価
 AA	 A	 B	 C	 A
5	6	1	0	

《評価できる点》

- 矢勝川や半田運河周辺の景観整備やイベント開催は評価できる。
- インスタを活用したフォトコンテストは、市内外の幅広い世代へPRできるとともに、景観をPRする効果も高く評価できる。
- 山車まつり、運河周辺の整備、南吉事業などで個々の取り組みが発展している点は、評価できる。
- 公園へ健康遊具を採用（設置）したことは評価できる。

《今後の課題及び期待したい点》

- 他の観光地におけるPR方法を研究し、検討することで、PR方法の改良を行うとともに、知多半島のお市町とより一層連携することで、新たな観光資源の掘り出しなどを行い、さらに魅力のある観光地にしてほしい。
- 半田運河周辺に景観にふさわしいデザインの公衆トイレを設置してほしい。
- 公園のトイレで使えない所がある。今後も使用できないなら撤去してほしい。

○文化財への意識啓発を図るため、散歩しながら見学可能な文化財（屋内や塀内は除く）は、観光マップに記載してほしい。

《提案》

- 景観形成については、観光客も含め、市外からの評価も参考にして考えること。
- 公園などは、完成したら目標達成ではなく、「市民が集うやすらぎの場になっているか」についても検証し、その検証結果を今後のハード面における施策の見直しにつなげていくこと。

柱5 みんなで環境を守り育てるまち

5-1 環境学習の推進

- 5-1-1 あらゆる世代への環境学習を支援します。
- 5-1-2 地域と学校が連携した環境学習を推進します。
- 5-1-3 環境学習指導者や地域での環境活動の担い手となる指導者を養成します。

5-2 市民・事業者・行政による良好なパートナーシップの形成

- 5-2-1 地域・事業者・行政など各主体間の連携を図ります。
- 5-2-2 各主体間における環境情報の共有及び活性化を図ります。
- 5-2-3 環境NPOや環境保全団体等の育成及び活動を支援します。

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 AA	 A	 B	 C	
1	15	3	0	19

はんだ環境パートナーシップ会議委員評価				市民評価
 AA	 A	 B	 C	 A
1	9	2	0	

《評価できる点》

- 様々な教育や学習機会が実行されていること、課題についても的確であることは評価できる。
- 家族向けの講座やイベントは、家族で環境について考える良い機会になっており、評価できる。
- 企業と連携して環境教育事業を推進していることは、企業にとっても、地域への貢献や企業への理解等の観点からメリットがあり、非常に良い取組で評価できる。

《今後の課題及び期待したい点》

- 転入者（外国人を含む）に対して、ごみの出し方（場所・時間及び分別方法）についての啓発活動をしてほしい。自治区に加入する人には、現在、自治区がごみの出し方を説明している。分別方法はパンフレットがあるものの、自治区に加入しない人には、ごみを出す時間、場所について説明する機会がない。
- 行政主体の受け身の環境活動で地球環境は守れないという世界的な潮流がある。子供や市民一人一人が自ら環境に対して何ができるのかを考えて動いていく環

境マネジメントシステムが学校での導入に留まらないよう、各家庭でも導入可能な仕組み(簡易版の作成や教育など)を作ってほしい。

- 環境学習ボランティア養成講座のみならず、様々な方法により、環境学習の指導者や地域での環境活動の担い手となる指導者を育成してほしい。
- 出前講座などの課外授業を学校で実施する際は、多くの教職員に見てもらい、授業の雰囲気を知ってもらいたい。また、課外授業を安全に実施するため、養護教諭にも同行してほしい。
- 市民活動を把握し、連携や成果発表の場を設けてほしい。

《提案》

- 外国人については、ごみが原因でトラブルになることがあるので、ごみの分別教育をしっかり実施すること。
- 転入者については、ごみを出す場所や時間についての周知を徹底すること。
- 環境学習のメニューは、子どもたち自身に考えさせるようにし、子どもたちが自分の手を動かす・自分の頭を使うなど、ゲーム性を持ったメニューを提供できるよう努めること。
- 行政は地域のリーダーを育てたり、NPO等の活動を支援したりすることで、地域が独自に活動して行くような仕組みを考えていくこと。

はんだ環境パートナーシップ会議委員名簿

平成30年 4月 1日現在

	氏 名	所 属
1	千 頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部教授
2	堀 崎 隆 資	半田市小中学校校長会 半田小学校校長
3	平 林 明 美	半田商工会議所 人財育成委員会委員
4	澤 田 政 孝	株式会社SUBARU 半田工場 総務部 主事
5	渡 邊 量 次	半田市区長連絡協議会理事 高根区長
6	和喜田 恵 介	特定非営利活動法人 中部リサイクル運動市民の会代表理事
7	石 川 由 弘	愛知県地球温暖化防止活動推進員
8	桑 田 八重子	みずほ環境保護クラブ代表
9	牧 野 純 子	半田こどもエコクラブサポーター
10	神 戸 繁 明	公募委員
11	近 藤 倉 治	公募委員
12	榊 原 正 躬	公募委員
13	鈴 木 俊 行	愛知県尾張県民事務所知多県民センター 環境保全課課長補佐

庁内評価

1. ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち

■施策の進捗を見る指標・目標

担当課	指標名	基準値 (H19)	中間値 (H24)	H25	H26	H27	H28	H29	達成 状況	H30 長期 目標	指標の推移(分析)
環境課	大気汚染に係る環境基準達成率(%)	二酸化硫黄	100	100	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100	測定地点:雁宿小学校にて測定。年間を通し基準値以下である。
		二酸化窒素	100	100	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100	測定地点:雁宿小学校にて測定。年間を通し基準値以下である。
		浮遊粒子状物質	75	100	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100	測定地点:雁宿小学校にて測定。年間を通し基準値以下である。
		ダイオキシン類	100	100	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100	測定地点:花園小学校にて測定。年間を通し基準値以下である。
環境課	河川のBOD濃度(mg/L)	神戸川	7.6	8.8	6.8 A	7.0 A	6.0 A	4.8 AA	4.7 AA	5.0	28年度より2年連続で目標値を達成することができた。水質浄化の原因を確認し、今後も目標値を維持できるための働きかけが必要である。
		矢勝川	6.8	8.2	9.2 C	13.6 C	9.6 C	10.9 C	10.9 C	5.0	調査地点の全てで基準値を超過しており、目標値に到達していない。河川全域での浄化が必要である。
		阿久比川	2.5	2.0	2.3 AA	2.7 C	2.3 AA	2.3 AA	3.6 C	2.5 基準値維持	毎月の調査は概ね良好であったが、冬場の下流域での水質が悪化したため、全体としては目標値を超過した。潮流の影響について調査する必要がある。
		十カ川	2.0	1.9	2.1 C	2.5 C	1.8 AA	2.0 AA	1.9 AA	2.0 基準値維持	27年度から3年連続で目標値を達成することができた。しかし、調査結果が一定していないため、天候、潮流等の影響について調査する必要がある。
		稗田川	11.1	9.7	7.5 A	7.7 A	6.4 A	5.5 A	5.7 A	5.0	27年度以降、環境の改善傾向が見られるが、春から夏にかけて水質が悪化する傾向がある。流量の影響が考えられるため、監視を続けていく必要がある。
下水道課	公共下水道(%)	人口普及率	75.7	84.2	85.7 A	86.6 A	88.5 A	89.0 A	89.0 B	91.0	変更された計画に対しては、順調に推移している。
		整備率(市街化区域内)	75.8	82.9	84.1 B	85.0 B	86.9 B	87.6 B	96.1 B	100	整備年度の見直しにより、完了年度が伸びたが、変更された計画に対しては順調に推移している。
環境課	悪臭がなく空気がきれいと思う市民の割合(%)	アンケート	42.2	51.2 (H25)	—	—	—	—	—	80.0	データなし

■主体別取組別庁内評価(成果指標達成度数)

達成度	マーク	施策別評価数			計
		1-1	1-2	—	
AA	😊	1	3	—	4
A	🙂	10	4	—	14
B	😐	0	1	—	1
C	😞	0	0	—	0

庁内評価

2. 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち

■施策の進捗を見る指標・目標

担当課	指標名		基準値 (H19)	中間値 (H24)	H25	H26	H27	H28	H29	達成 状況	H30 長期 目標	指標の推移(分析)
環境課	1世帯当たりの年間使用量	電気(kWh)	5780	5,436	5,392 A	5,061 AA	4,752 AA	—	4,904 AA	AA	5,200	H27年度と比較すると増加しているものの、目標値を達成している。H28年度は、電力自由化開始に伴い、正確な使用量を把握できなかった。(※データ:中部電力提供)
		都市ガス(m³)	408 (H18)	409 (H23)	409 (H23) B	409 (H24) B	395 (H25) A	392 (H26) A	377 (H27) AA	AA	390	
	環境配慮型住宅用設備の導入件数(累計数)	太陽光発電システム	305	1,428	1,928 A	2,386 A	2,798 AA	3,117 AA	3,412 AA	AA	2,400	一事業所の電力購入実績件数である。年々増加傾向にあり、一般家庭での設置も定着したと言える。 (※データ:中部電力提供)
		高効率給湯器	1,636	5,071	5,696 A	6,060 A	6,828 A	7,452 AA	8,134 AA	AA	7,000	一事業所の設置台数である。年々増加傾向にあり、一般家庭での設置も定着したと言える。 (※データ:東邦ガス提供)
	家庭部門CO ₂ 年間排出量(千トンCO ₂)		171 (H17)	190 (H23)	190 (H23) B	198 (H24) C	178 (H25) AA	175 (H26) AA	160 (H27) AA	AA	185	按分計算であり、愛知県民1世帯あたりの数値となる。上記から省エネ意識が高まっていると考えられる。 (※環境省:区域施策編支援ツール)
クリーンセンター	市民1人1日当たりのごみ排出量(g/人・日)	総ごみ量	1,090	992	984 B	955 A	951 A	947 B	929 B	B	915	一度は総ごみ量・生活系ごみ量ともに増加したが、H29年度は減少した。目標値達成に向け、さらなる減量を進める必要がある。
		生活系ごみ量	676	599	596 B	585 B	578 B	582 B	575 B	B	542	
	リサイクル率(%)		20.3	24.1	24.1 B	23.6 C	23.6 C	22.8 C	22.4 C	C	30.0	資源回収量が減少し、リサイクル率が下がっている。
環境課	エコ事業所登録数(累計数)		—	89	141 A	170 A	171 B	170 B	171 B	B	300	PR不足及び制度未整備が原因と考えられる。
	エコファミリー登録世帯数(累計数)		—	515	1216 A	1522 A	1802 A	1820 B	1824 B	B	2,500	平成27年度までは太陽光発電設置への補助金交付対象者の登録を義務付けており、順調に推移していたが、補助金制度の縮小により、横ばい傾向にある。

■主体別取組別庁内評価(成果指標達成度数)

達成度	マーク	施策別評価数			計
		2-1	2-2	2-3	
AA	😊	5	0	0	5
A	🙂	9	4	2	15
B	😐	4	10	4	18
C	☹️	0	0	0	0

庁内評価

3. 豊かな自然を守り、自然と共生するまち

■施策の進捗を見る指標・目標

担当課	指標名	基準値 (H19)	中間値 (H24)	H25	H26	H27	H28	H29	達成 状況	H30 長期 目標	指標の推移(分析)
都市計画課	1人当たりの公園・緑地面積(㎡/人)	5.8	6.2	6.2 B	7.1 AA	7.1 AA	7.4 AA	8.1 AA	 AA	7.0	新規公園整備を進めており、目標は達成できた。
経済課	耕作放棄地の面積(ha)	48.2 (H20)	29.3	27.4 A	28.4 A	32.5 C	34.5 C	35.2 C	 C	25	利用状況調査等により面積の減少に向けて努めたが、農家の高齢化や離農が進み、増加傾向にある。
	市民農園の面積(㎡)	9,550	26,297	27,757 AA	27,757 AA	27,757 AA	27,757 AA	27,757 AA	 AA	26,297 現状地維持	耕作放棄地を活用し、市民農園を整備することで、緑地の確保を図ってきた。

■主体別取組別庁内評価(成果指標達成度数)

達成度	マーク	施策別評価数			計
		3-1	3-2	3-3	
AA		2	1	1	4
A		7	5	6	18
B		0	3	0	3
C		0	0	1	1

庁内評価

4. 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にするまち

■施策の進捗を見る指標・目標

担当課	指標名	基準値 (H19)	中間値 (H24)	H25	H26	H27	H28	H29	達成 状況	H30 長期 目標	指標の推移(分析)
都市計画課	まち並みがよく調和していると思う市民の割合(%)	アンケート	31.7	41.1 (H25)	—	—	—	—	—	50	データなし
	1人当たりの公園・緑地面積(㎡/人)	5.8	6.2	6.2 B	7.1 AA	7.1 AA	7.4 AA	8.1 AA	 AA	7.0 現状地維持	新規公園整備を進めており、目標は達成できた。

■主体別取組別庁内評価(成果指標達成度数)

達成度	マーク	施策別評価数			計
		4-1	4-2	4-3	
AA		1	1	2	4
A		4	4	3	11
B		0	0	1	1
C		0	0	0	0

庁内評価

5. みんなで環境を守り育てるまち

■ 施策の進捗を見る指標・目標

担当課	指標名		基準値 (H19)	中間値 (H24)	H25	H26	H27	H28	H29	達成 状況	H30 長期 目標	指標の推移(分析)
環境課	環境学習イベントの参加人数(人)		239 (H21)	538	767 AA	879 AA	1194 AA	1,065 AA	796 AA	 AA	600	目標値には達しているが、リピーターが多く、広がりを見せていないのが現状である。より一層の普及・拡大を図るため、地域の環境に合わせたメニューや未就学者向けのメニューを考察する必要がある。
市民協働課	アダプトプログラム	登録者数(人)	8,022	7,383	8,057 A	8,106 A	9,563 AA	8,993 AA	9,064 AA	 AA	8,500	アダプトプログラム登録団体数は増加したが、目標数には届かなかった。高齢化に伴い登録を解除する数も少なくないが、登録団体数、登録者数の増加に伴い、新しいボランティアの担い手が増えつつある。
		登録団体(団体)	147	181	168 C	172 C	156 C	168 C	172 C	 C	250	
環境課	環境保全活動に参加したことがある割合(%)	市民アンケート	16.6	13.3 (H25)	13.3 —	38.9 A	— —	47.0 AA	— —	— —	40.0	データなし
		事業者アンケート	27.0	33.9 (H25)	33.9 —	— —	— —	— —	— —	— —	50.0	データなし

■ 主体別取組別庁内評価(成果指標達成度数)

達成度	マーク	施策別評価数			計
		5-1	5-2	—	
AA		1	0	—	1
A		10	5	—	15
B		0	3	—	3
C		0	0	—	0